

「医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育／ ICT を活用した教育の質保証」

特集号の発刊にあたって

真嶋由貴恵 (大阪府立大学), 合田 美子 (熊本大学), 小島 一晃 (早稲田大学),
東本 崇仁 (東京理科大学), 林 雄介 (広島大学)

1. はじめに

ICT (Information and Communication Technology) の高度化により、学習・教育の環境は、研究型から実践型へシフトしてきている。本特集号では、これまで本学会では投稿が少なかった医療分野など専門職を育成する実践重視型の教育活動や、ICT 基盤の普及によって可能となった大量の学習活動データの活用や多面的な教育実践評価、さらにそれらに立脚した教育改善プロセスに着目し、「医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育」(以下、医療系)と「ICT を活用した教育の質保証」(以下、質保証)の二つのテーマに焦点を当てた論文を募集した。

1.1 医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育

医療・看護・福祉分野においては、人そのものを対象とするので、コンピュータなどの ICT の活用はなじまないとされてきた。しかし、一方でマルチメディアを活用した e ラーニングが多くの医療系大学や病院などに導入され、ICT を活用して膨大な知識の効率的な学習、新しい知識の定着、医療・看護技術の習得などで、高い学習効果が得られたことが報告されている。最近では医療人育成のために体系化された教育プログラムにこそ e ラーニングや ICT の活用が効果的である、との声も聞かれるようになってきている。そこで本特集では、医療・看護・福祉分野において求められている「高い実践能力をもつ人材の育成、専門知識におけるナレッジマネジメント、学習者支援、学習コンテンツの設計、インストラクショナルデザイン、医療サービスの質保証ならびに質評価、e ラーニング教

材制作、臨床や教育機関での実践・運営環境の構築、著作権処理」をキーワードにして、この分野における専門職教育に必要な知識や技能の習得を支援する研究・開発・実践に関する論文を募集した。

1.2 ICT を活用した教育の質保証

教育現場に ICT が初めて導入されてから何年も経ち、現在では、教育の質保証または向上、教育の実質化、そして学習支援に活用されている。その用途には、大学改革を促進するために、教学マネジメントの強化に関する IR (Institutional Research)、教職員向けの研修 (FD: Faculty Development/SD: Staff Development)、図書館や博物館などを含む教育施設や教育機関との連携など組織的な利用がある。また、学習者の主体的な学びを実現するために、e ラーニングや e ポートフォリオなどを用いた教育実践や評価も進められている。このような背景を踏まえ、本テーマでは、教育の質保証・実質化に関連する研究として IR, FD/SD, 教育連携などと合わせて、システム開発やコンテンツ作成、学習支援の環境や技術、教育実践と評価、カリキュラム設計、インストラクショナルデザイン、学習科学など、教育に関連した幅広い分野からの論文を募集した。

2. 論文の投稿数と判定結果

2013 年 4 月 22 日のエントリー締め切り、2013 年 5 月 6 日の論文投稿締め切りを経て、最終的に 38 編 (原著論文 12 編, 実践論文 15 編, ショートノート 5 編, 実践速報 6 編) の投稿があった。本特集は、こ